

## 図們江開発と北東アジア協力

吉林省延辺朝鮮族自治州企業連合会執行副会長  
趙哲学

### 1. 序論

北東アジアは近い将来、世界経済の中心と世界経済を率いる牽引車となるだろう。それは、図們江開発が提起されて 20 年あまり、関係各国は相次いで 8 回もの部長級会議を開催して協力事項を相談・検討しており、多くの開発問題において共通認識が得られ、同時にいくつかの試みをしているからである。

2009 年 8 月、中国政府は「中国図們江地域協力開発規画綱要 長吉図を開発開放先導区とする」を公布した。ここから新しい図們江開発が始動すると同時に、再び世間の注目を集めている。

### 2. 図們江開発戦略

- (1) 中国が長吉図の開発プロジェクトを提起する背景
- (2) 中国長吉図開発開放先導区戦略の特徴
- (3) 中国長吉図開発開放先導区の主要な内容
- (4) 中国長吉図開発開放先導区の中心目標

### 3. 北東アジア協力の新しい模索

2009 年、中国政府が推進する第二ラウンドの図們江開発とは、長吉図発展戦略を主に中朝・中ロ・中モの二国間協力モデルのもとで実施することである。特に、中朝の羅先市に対する共同開発は、北東アジアの多国間協力に重要な参考の根拠を与えることになるだろう。同時に、将来の北東アジアの協力に重要な意義を持つ。

2009 年 8 月、長吉図戦略を始めとする中朝両国の新しい経済協力は、過去 4 年間の推進過程の中で、すでに見える成果として出ているが、なお多くの解決しなければならない課題がある。現在、中朝両国は、法律制度・経済体制・財産権の制度等各方面で大きな違いがあり、今後の協力において多くの困難に直面しているが、堅い信念と知恵による対処プランで理性的に問題を解決すれば、予想した成果が得られると信じている。北東アジアの関係各国及び世界のその他各国の企業もその中に参入し、近い将来、予期した目標を実現できることを期待している。

[中国語原稿を ERINA にて翻訳]